

第3回 仙台市総合計画審議会市民の暮らし部会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年10月26日（火） 18：30～20：30
会 場	仙台市役所 2 階 第 4 委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、内田幸雄委員、大村虔一委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、鈴木由美委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、水野紀子委員、柳生聡子委員 [13名]
欠席委員	西澤啓文委員、永井幸夫委員 [2名]
報 告 者	林信吾氏、宮本浩氏
事 務 局	企画調整局次長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹（2）、青葉区役所区民部長、宮城野区役所区民部参事、若林区役所区民部参事、太白区役所区民部長、泉区役所区民部長
議 事	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業の実施状況について (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について (3) 区別計画について (4) その他 3 閉会
配 付 資 料	1 市民参画事業の実施状況について 2 まちづくり市民フォーラム結果報告 3 基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の概要 4 基本計画（中間案）の区別計画について 5 審議会日程（案）

会議の概要

議事

(1) 市民参画事業の実施状況について

(2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について

・事務局から資料1及び資料2を基に説明した。加えて、「まち歩きフィールドCafe」については、報告者2名から当日の活動内容や感想を報告した。

・市民力をテーマとした取組の報告後、引き続き中間案の市民力関連部分の見直しの方向について意見交換を行った。

<主な意見等>

・市民参画事業を実施して、総合計画にどのように盛り込むべきだったのか確認したい。市

民力について市民の皆さんのご意見を聴いたという位置付けでいいのか。

次年度に向けて地域政策等の見直しや市民協働の新しい仕組みづくりを考えるということで行った。なかなか市役所で取り組めなかった手法を取り入れた。こういう手法をいかに様々な事業の中に入れていくか、どうつくり込みをしていくかなど、次年度に向けた事業を検討している。また、こういった場をどうつくり込んでいくかということで、ワーキングチームを作って検討をしている。

- ・他部局でも今回のような取組を市民参加や市民協働の形で取り入れていくためのモデル的な取組の一つでもあったということで良いか。

これまでの市民参画のあり方は一問一答や説明会形式が多かった。今回はファシリテーターがそれぞれのグループにつき、フィールドを見たり、一人一人の意見を丁寧に聴いて意見を集約したりするといった、地域の課題解決や魅力づくりに応用できる新しいスタイルができたと思っている。今後、市民力をさまざまな分野で生かしていく上で、これらを取り入れていきたい。また、この総合計画の中に文章として書き入れたいと考えている。

- ・特色のあることを行っている人のところを回って、ふれて、理解していくという取組は今までも一応行われていたが、それを、非常に短い時間ではあるが、自分たちの考えをまとめるところまで突き詰めたところに今回の面白さがあると思う。
- ・具体的なプロジェクトを作ることが、市民が行う面白さ。要するに行政が行うと、どこかが担当しなければならないといったことになるが、市民が行ってみたいという考えをベースにどんどん進められる良さがあり、その良さを開いていく役割として、今回の取組がある。
- ・心に思っていることを「やってもいいよ」という仕掛けが一番力を持っている。大勢の人がいろいろな知恵を持っている中で、様々な組織と連携して転がす仕組みをどう作るべきかが大きなテーマで、今回の取組はそのごく一部にふれるものだが、もう少し大胆に押し進める必要があると思う。
- ・地域課題を多くの人で共有できないところに問題がある。意識の高い人をまず育て、盛り上げ、それから呼びかけると、共感を得た事業ができるという実態が多いと思う。
- ・市のサポートする立場が大きな要素を持っていると思う。共通の認識を持った部門があると、今までできなかったことが市民の力でできるとの理解が皆に進むと思う。
- ・市民力というのは、中核になる人がいないとなかなか立ち上がらない。同じ内容でも、熱っぽく行う人たちが何人かいると、かなりすごい事業ができる感じになると思う。
- ・例えば、各自治体の児童虐待についての研究会に参加したが、うまくいっているところは人の力がポイントとなっている。それも大勢の力というより、比較的限られた中核になっている人が本気で一生懸命やっていると、その周囲に力が働いて、全体がぐっと良くなるみたいなことがある。
- ・いわゆるお祭り型の提案だけではなく、我々の生活の中に抱えている問題の解決について、市民力で助けていただくという仕組みが作れると良い。
- ・今までの市民意見聴取と同じでは、いわば行政への要求を承るということになってしまう。それも大切ではあるが、主体的に考えながら動く市民の知恵を拝借するところから始まり、その次は力を拝借するところへ展開していければ良い。さらに力を拝借するとき

は、本来の仕事や勉強と両立しながらできる仕組みが必要。

- ・市の主催でこういう取組ができたことは良いことだ。そういった形で出てきたものを、どのように行政側で保障し、今後、どのようにつないでいくかが、非常に重要な課題だと思う。ぜひ、そこに知恵を出して動かしていただけたらと思う。
- ・まちづくりの現場では、きれいごとでは動かない場面がたくさんあり、我々も様々な試行錯誤をしている。そういう失敗の経験も、もっと共有した方が良い。ただ、表面的な失敗談だけ聞かされても、次につながらないということもあり、より踏み込んだものが第二ステップで必要になると思う。そのためには失敗データベースといったものを市民の中で共有していく仕組みが必要ではないかと感じた。

- ・事務局から資料１及び資料３を基に説明し、「市民力」以外部分の見直しの方向について意見交換を行った。

< 主な意見等 >

- ・市民力がよく分からない、必要性・重要性を導く記載に、といった市民意見があったが、私も市民力をもっと前面に押し出す記述でもいいと思う。やはり市民力をもう少し浮き立たせたせ、さらにはなぜ必要なのかというのも記載があった方がいい。
- ・基本計画の総論の記載が薄いという意見もあったが、ここにも、今後人口がこうなるので、だからこそ市民力が必要であるといった、市民力の位置付けがあっても良いと思う。
- ・もっと重点項目を分かりやすくすべき。四つの重点政策があるが、例えば二番の「少子高齢時代に支え合う社会づくり」という表現は、どの都市のいつの時代の総合計画にもありがちなフレーズなので、例えば「子育てするなら仙台で宣言」といった、インパクトのある、受け手に伝えることをより意識した文章、キャッチコピーが欲しいと思う。

内部でも同様の考えがある。出し方というのは非常に難しいので、いずれ委員のお知恵も頂きたいと思うが、内部なりに今回の計画のキーポイントを分かりやすく市民の皆様にお伝えできるようなフレーズを出していくことが重要だと考えている。

- ・都市のデザインの部分で「都市軸にない地域の利便性の向上も大切」というところについて、例えば宮城野区は都市軸から外れているが、新田や岩切などのＪＲ沿線も乗降率が高いところであり、今後力を入れて欲しいと考える。

区民意見交換会でも各地域で同様の話があり、例えば高齢化が進んだ大規模な団地でも、地域の足となる交通の便など、生活利便性をセーフティネット的に維持してほしいというご意見などを頂いている。それと仙台の中枢性を高めるための基盤の整備を都市軸に行うことと両方を同時にどこまでできるかは、限りある財源の中で難しい課題ではあるが、重要なテーマだと思う。

- ・仙台港は県のかかわりが非常に強いとは思いますが、港の魅力をもう少し都市の魅力として何か唱えられないかと思うがどうか。

仙台港は、コンテナ等の物流量も増え利用度が上がっており、開発も進みインターチェンジ等の整備も取り組んでいる。この部分の魅力づくりには、宮城野区の区別計画に取組の記述がある。県との関係、あるいは財源の関係で難しい部分はあるが、取り組んでいく必要があると思う。

- ・泉は特徴的な地区であり、前は副都心という表現を使い、多極型の都市づくりをするという方向性でスタートした。泉だけではなくもっと広い地域に利益を与える都市構想が必要だが、今は交通結節機能しか持っていない。現在、富谷町や大和町に大きな商業施設が出てきており、泉が力を出さないと、周辺にすべて持っていかれ、沈下してしまうので、もっとテコ入れすべき、というのが泉の人たちの意見だと思う。泉は30万人ぐらいに影響を与える地区で、その辺をよく考えながら地域計画もきちんとしなないといけないと思う。
- ・地域の活動で、お宮町の地域情報プロジェクトというものを始めている。行政の商店街支援は限界があるので、基本的には地域の人たちに足を運んでもらい、そこで買って応援してもらうというもので、それも市民力だと思う。宮町も、幸町に大規模な商業施設ができており、どうしてもそちらに顧客を取られがちになる。その結果、地元の商店街が衰退してくるが、採算が取れなくなると大手はすぐ撤退してしまう。やはり地元の店で買って応援するということを市民力としてつくっていく必要がある。
- ・現行の総合計画を策定したときに、副都心という言葉はどうするかは相当大きなテーマだった。人口減少の傾向はもう見えていた中で、都心をしっかり維持することが大きなテーマだった。その前は人口が伸びる雰囲気の中で副都心を育てていく動きがあったが、現行計画策定時には都心は一つにしていた方が良くといった考えがあり、その他は大きな拠点というぐらいに位置付け、副都心という言葉の影が薄くなっていったと思う。その中で泉は、かなり成功している部類にあると思うが、それをさらにどう支えるか。地下鉄を造ったときに考えていた以上に、富谷町などに店などが出ていったので、これが次の時代にどうなるかを見据えた上で、議論すべきという感想を持った。
- ・当時と違うのは富谷町があんなに急に伸びるか推定していたかだと思う。大規模工場が来るなど伸びが極端で、その中で逆に泉が非常に空洞化して来ている。だから、黙って見ていると、泉はただの結節点だけになってしまう心配があり、それは今後、検討に値することと考えている。
- ・人口減で商店などは都心部だけではなく全体が少しずつ落ちてくる。この先どうなるか分からない。この100年ぐらいにすごい勢いで膨れたところが、しぼんでくる状況の中でどうすべきかだ。
- ・富谷町や大和町など影響力のある地域が増えており、仙台市部分は減っているが、泉はまだ減少までっていない。仙台市全体から見ると伸び率は高いと思う。
- ・人口的には仙台の北に隣接する地区は比較的伸びているが、だんだん頭打ちになっている。富谷町はまだ大きな計画があるが、手付かずになってしまっている。大規模店舗などが大きな計画を前提に立地したが、それが動かなくなると、また少し違ってくると思う。その辺は長期的に総合的に考える必要がある。
- ・都市として人口の多くいる地域は、やはり特別な考慮をしないと問題になると思う。
- ・35年前から世田谷で市民活動のようなことをやってきたが、そのときに市民と行政との交流や、市民同士の交流をやった。民間のまちづくり協議会を立ち上げ、そこが主催する交流会や区民提案会を行った。次にはミニワークショップを区の事業のいろいろなものに関連して行った。その後まちづくりファームづくりを行っている。我々も市民力というときには、それを乗り越えた新しい仕組みを計画の中に盛り込む必要があるのではないかと考

え方として市民力というのは相当なレベルに来ているとは思いますが、具体的にこれをやると
いう話が、もう少し欲しいと感じる。

- ・市民の意見でも市民力がよく分からないということも出ており、改めて市民力とは何かと
いうことを、再確認しておく必要があると思う。1月答申に向けて時間もあまり無いので、
そろそろ集約の方向に進む必要がある。
- ・去年は「行動する市民力」という言葉がキャッチフレーズとして挙がっていたわけだが
「行動する」という部分が外れた分、市民力が意味するところは広がったと思っていたが、
未だに市民力は、何かしらのアクションを起こすというとならえ方になりがちだと思う。そ
の場合、エネルギーに行動を起こせない立場の方にとっては、関係ないとならえられ
てしまうおそれがある。市民力というのは、いわば市民による、市民のためのまちづくり
とも言えるので、必ずしもアクションを起こす力だけではなく、考えていくという力その
ものも、市民力に含まれると思う。
- ・何をもちて市民力とするのか共通認識を持っておいた方が良いのか、あるいは逆に、自由
度を持たせて様々な解釈、様々なイメージが持てるようにした方が良いのか、委員のご意
見をうかがえればと思う。
- ・市の中で東西線沿線のまちづくりというのは、一大プロジェクトで重要だが、その中での
市民の参加や議論だが、まちづくり協議会自体が立ち上がっていない駅もある。市民力と
いったときに、やはり一定の行政の働きかけが必要で、駅周辺のまちづくりをどう仕掛け
ていくかというのは、非常に重要なことだと思う。市民力はいろいろなところででてくる
が、市民だけでなく市がどのように仕掛けていくかというのが大変重要だと思う。
- ・これからは、今までの高度成長のパラダイムというのは全部崩れてしまうということを直視
すべきと思う。地域計画で何かをテコ入れして作り、集客して街を良くしていくというの
は高度成長期の発想だと思う。我々の社会はどんどん縮小していつていることを直視すべ
き。縮小を情けないと思うのも高度成長期の発想であって、これだけ豊かに、成熟した社
会は、大人の落ち着きを持って、幸福に縮小していくということも考えられる。
- ・どうやって幸福に縮小していくかという、ご近所の支え合いや、暖かいまちを作ってい
くこと。ご近所の力、ネットワークというのは、ただ与えるだけではなく、自分が支える
ことで自分の生きがいとか、幸福というのを得ることができる。仙台市というのは、そう
いう力を持てる規模、かつ、伝統のあるまちだと思っている。
- ・ネットワークづくりについては、市民からの発信を容易に集約できる科学の進歩があるの
で、そういうものを利用して、例えば高齢者に必要なものが直ちに周囲から届けられると
いったシステムを草の根から作り上げていくようなこともできると思う。
- ・我々の社会を、豊かで成熟した、皆が幸福に、そして静かに幸福に暮らせる共生の街に切
り替えていくことができれば、大変暮らしやすい街になるだろうと思うが、それには、市
民の草の根の力を頂くしかないと思う。

(3) 区別計画について

- ・事務局から資料4を基に説明した。
- ・各区には限られた予算という基本的な制約があると思うが、そのような中で、今回の区別

計画づくりに一番大変だったことをお聞かせ願いたい。青葉区に願います。

青葉区の場合、区の現状と課題を把握することを出発点とし、その解決のためにどういった施策が必要かを検討し、その中で現在区が実施、あるいは実施予定の事業と、本庁組織が青葉区エリアで行う事業の情報を把握し、それを区別計画に反映させている。その過程においては、区内の主だった団体の方々に対し、現状と課題の共有というところからディスカッションを行い、計画づくりを進めていった経過がある。計画づくりについては全体の基本構想、基本計画づくりといわば同時並行で進める中でも苦労はあったが、現状と課題の分析から積み上げという試行錯誤の中でこういった形に中間案としてまとめた。

- ・ 区のビジョンとして、3区で災害対応に強いまちづくりというのが示され、青葉区と宮城野区にはその大きな項目が入っていないが、宮城県沖地震が近い将来に起こる中で、これで良いのか。

全市計画の中で、地震などの災害対策を重視しており、区別計画についても個別のところでは、各々の区で十分に配慮している。ただ、概要版の各区のビジョンの中には、災害という部分が入っている区と入っていない区があり、統一するか検討したが、個性がなくなってしまうというジレンマがあり、中間案では統一をしていない。

災害対応や高齢化に向けた対応という全市でも重要なものについて、ある程度統一すべきではないかという議論も庁内でしている。特に概要版は各区のビジョンを並べているので、見た場合に大きな違いを感じてしまうことから、最終案に向けて工夫する必要があるという議論をしている。

- ・ 区別計画の中で、区の特性と状況に応じた計画を打ち出しているという話だったが、全市部分の4つの重点政策に関して、例えばこの4つの重点政策の1番目は区別計画のこの部分といった、もう少し分かりやすい構成にするという案は出なかったのか。

中間案を作る段階で、市の方の4つの重点政策を作りながら、区では区民の意見を聞きながら作っており、整合しなかった部分もあると思っている。頂いた意見の中でも統一性を図るべきではないか、区ごとの表題のばらつきはどうかといった意見もあり、そこをどうしていくか、区別の総論部分の処理と併せ、区別計画の体系についても少し見直しがあればと思っている。

地域政策等についての方向性を打ち出しているので、圏域ごとの取組をさらに深めていく対象として、この区別計画は良いと考えている。区別のご意見もたくさん頂いており、こういったことを次年度以降どういうふうに展開できるか、この区別計画の見直しと全市計画との整合性なども含めて、どこまでできるかこれからがんばっていきたい。

- ・ 整合性は当然大事だが、区の個性もやはり生かしていく必要があると思う。全体で記載しているものを区別計画にもとすると、区の個性が薄らいでいく気がする。
- ・ 区があり、4つの重点政策があるので、それをある程度マトリックスにして考えていただいた方が良くないかと思っている。例えば、学びについては、青葉区など大学が多くあるところは、それなりの学びということがある。また、大学がない区でも、例えば若林でいえば、農が市民の健康などにかかわりながら自活していくにはどうすべきかといったことが学問的な領域としても成り立つとなれば、学びにもつながる。その区の特色を出しながら、そこを整理していけば面白いものになると期待している。

- ・総合計画の推進に向けては、評価点検が大事。10年スパンでの目標を掲げて評価点検する仕組みに市民がどうかかわっていくのか。また、これまで計画を作ってきたときに、市民が評価点検にかかわってきたのか。地域らしさが問われている中、「計画を絵にかいたもちにならないようにする」ということで、評価点検モニタリングの仕組みに市民がかかわることになると思うが、そこでさらにいろいろな工夫ができると思う。
- ・総論の中で、今後10年間に区役所の持つ機能の変化の議論があまり無いままに進んでいることに疑問がある。行財政改革の絡みもあると思うが、今のまま大区役所制でいくのか、それとも機能を変えていくのか。変わるのであれば、その辺は総論の中で記載する必要があると思う。

区役所の機能、大区役所制のあり方等については、市議会でも非常に大きな論点になっている。今、内部組織の見直し等を予定しており、効率化の部分や地域政策を進める上で区役所の果たすべき役割などについて、市議会でも議論をしているところなので、現段階で総合計画の中にお示しすることができないのが率直な状況。

大区役所制として始めた区役所制度ではあるが、段階的な見直しを行ってきている。何が大区役所制かという議論はあるが、地域政策を進める機能を区役所で持っているということが、大区役所制の一番のかなめだと思っている。市議会での議論も踏まえながら、どこまで書き込むことができるのかを調整していきたい。

(4) その他

- ・事務局から資料5について説明した。